

日本法獣医学会
令和8年度 法獣医学研修会

ネグレクト

日本獣医生命科学大学
野生動物学研究室
木原友子

本講義の内容

1. ネグレクトとは
2. ネグレクトで認められる所見

2

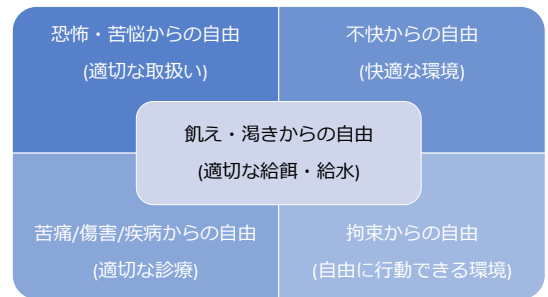
ネグレクト

- 動物の飼い主・所有者が、動物の生存に必要な食餌や水、隠れ場所、獣医療を提供せず、本来の行動をとることができない環境に拘束する

= 最低限の動物福祉を担保するための5つの自由を提供しない

3

動物福祉の5つの自由



ネグレクト

- 身体的虐待よりも苦痛は少ない?
- 苦痛が長期間におよぶ
- ネグレクトされた動物が経験する不快感、苦痛、痛みは累積する
- 不可逆的な障害、死亡につながる可能性
- 死ぬまで苦痛が継続する

5

ネグレクト

身体的ケアの欠如

1. 長期間の不十分な栄養
2. 不適切・不衛生な生活環境
3. 不適切な拘束・係留
4. 極端な環境への曝露
5. 獣医療の欠如
6. 遺棄

1. 長期間の不十分な栄養

- 消瘦
- 飢餓
- 脱水
- 免疫低下
- 異物摂取
- 共食い

消瘦

- 相当量の体脂肪と筋肉を消失する
 - 理想体重よりも20%～25%減少
 - 肋骨、脊椎棘突起、寛骨、肩甲骨縁等の骨格構造が視覚的、触覚的に確認される
 - 頭部では、側頭筋の丸い形が喪失
- 立位の動物を背面から見た際には、砂時計の形が確認される



肥満も栄養障害！！

飢餓

- 生存に必要な糖質、脂質、蛋白質、ビタミン等の栄養素や水が不足しているために生じる病的状態
- 栄養不足には、クワシオルコル、マラスムス、その混合型
- クワシオルコル：蛋白欠乏に起因（低蛋白血症、浮腫、脂肪肝、肝腫大）
- マラスムス：エネルギー不足に起因（全身的な衰弱、皮下脂肪、筋組織の減少、著明な体重減少）

飢餓

- 飢餓の発症から24時間後に筋萎縮が始まる
→背部と大腿の筋萎縮 →全身の筋肉
- 合併症を伴う動物：代謝率が上がり体組織の消失が早まる
- 幼若齢動物：体重減少、骨の成長能力の低下
- 妊娠動物：不健康な新生仔の出産、死産
- 全身性変化：薄く乾燥して毛の被毛、
容易な脱毛、皮膚鱗屑の異常な蓄積、
創傷治癒の遅延、
二次的な細菌・真菌感染

リフィーディング症候群

- ネグレクトの発覚を恐れて、飢餓状態にある動物に多量の食餌を摂取させることがある
- 慢性的な低栄養状態で、急速かつ過剰な栄養補充を行うことで発生する代謝合併症
- 低リン血症、低マグネシウム血症、低カリウム血症、乳酸アシドーシスをきたす
- 適切な治療を行わなければ不整脈や心不全を起こし、死亡する



黄褐色粘稠内容物 201.7g



黄褐色粘稠内容物 627g

脱水

- 水が提供されない、動物が水を飲めない状況に拘束される、獣医療の提供不良等により生じる
- 脱水は、飢餓と同時に発生する
- 重度の脱水は、電解質の不均衡を起こし、生命を脅かす
- 体重の15%~20%の水分量の減少により死に至る

免疫の低下

- 低栄養の継続→免疫低下→感染症に対する感受性増大
- 細胞性免疫は食欲不振から3~5日以内に損なわれる
- 寄生虫の蔓延や細菌感染は、低栄養状態の動物の衰弱を悪化させる



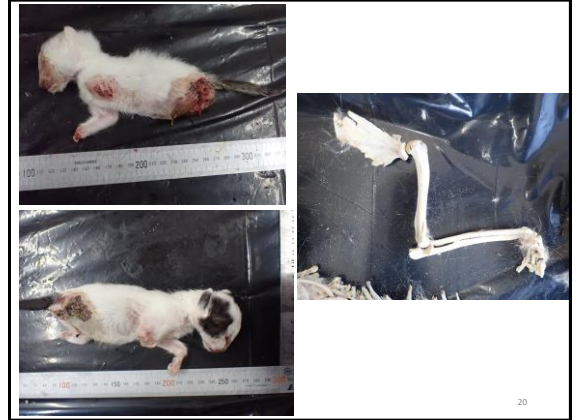
異物摂取

- 食事以外の物体の摂取
例) 石、プラスチック、木、土 等
- 空腹だけでなく、長期間の拘束により運動が制限され極端な退屈に起因する場合もある
- 胃粘膜・腸管壁を損傷し、粘膜潰瘍、粘膜出血、消化管穿孔を起こす
- 糞便中に異物が認められる
- 上部消化管の出血により、下血が観察される
- 解剖検査で、消化管内から異物が回収される



共食い

- 過密、不衛生な住居、飲食が不十分、騒音・悪臭が持続するといった高いストレスの環境に起因する（アニマルホーダーでは、上記の要因が共存）
- ストレスによる摂食では、動物が同種摂食に抵抗を示し、動物の四肢末端に限局する
- 空腹による摂食では、頭と尾を除いた全身を摂食する
→現場や死亡動物の消化管内容物中に損傷や関節のない骨
- 閉じ込められた動物は、動物死体の一部を別の場所に移動する
→動物が飼養されていた環境をくまなく確認する
- 欠損部位のある動物死体が外部から閉鎖された環境で発見
→閉じ込められた動物が、動物死体を摂取している可能性
- 共食いの所見は、死後変化、カラスや野生動物等のスカベンジャーによる食害の区別（歯の跡、穿刺傷、鋸歯状欠損、胃内容物中の骨）



2. 不適切な生活環境

- 狭い、過密、避難場所の欠如、拘束
⇒休息できない
- 過密では、動物が食事と水を求めて競争する
- 接近によるストレス

2. 不衛生な生活環境

- 飲めない水、腐った食べ物
→細菌、原虫、寄生虫の繁殖
- 吐物、糞便、尿の堆積
→悪臭
→アンモニアによる粘膜障害
- ノミやダニの蔓延
→全身性皮膚炎等の二次疾患
- 室内の乱雑・汚れ、危険物
→損傷の誘発

3. 不適切な拘束・係留

例)

- 係留の鎖・リードを短く結ぶ
- 狭い場所に閉じ込める
- 避難場所のない屋外環境への放置

✓行動の制限

✓不適切な環境から逃れられない

✓首輪による頸部の損傷

自由な行動の制限

- 横になれない →休息できない
- 飲水できない →脱水
- グルーミングできない →被毛粗剛、毛玉形成
- 動けない →爪の過伸長・巻き爪・爪の食込み
→四肢の成長不良・歩行障害
→運動不足→肥満
- 遊べない →退屈 →常同行動、
沈鬱、学習性無力感



不適切な環境から逃れられない

- 異常な温度環境（暑い、寒い）
 - 気象変化（直射日光、雨風、雪、雷雨）
- 低体温症、高体温症

首輪による頸部の損傷

- 動物の成長や体型変化に合わない首輪は、頸部に食い込み、損傷を形成する
- 皮膚・皮下組織の圧迫壊死
- 頸部の血管が圧迫され、頭部の浮腫や腫脹
- 頸部の血管裂傷による失血
- 蟻蛆症、細菌感染
- 食欲低下、低栄養、栄養失調、飢餓



4. 極端な環境への暴露

- 寒い →低体温症・凍傷
- 暑い →高体温・熱中傷

低体温症

- 不適切な生活環境への拘束に起因する
- 低温環境への曝露による体温低下のために生じる障害
- 体温低下による死亡を凍死
- 動物が低温環境下に曝露すると、次第に徐脈をきたし死亡する
- 合併症がない低体温症の動物では、明らかな病変はない
- 浮腫、出血、虚血、凍傷

凍傷

- 低温の局所作用による傷害
- 耳、指、陰囊、尾等の身体末端に生じやすい
- 軽度では、表皮のみの障害で、青色の腫れた外観を示す
- 重度では、深部組織まで障害が広がり、壊死する

高体温症

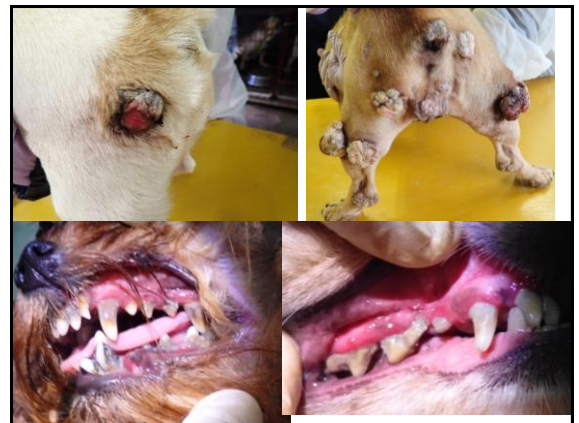
- 不適切な生活環境への拘束に起因する
例) 直射日光の当たる高温の車両や建造物
屋外環境への動物の放置
- 高温環境への曝露によって、体温調節機能が破綻し、高体温症をきたし死亡する
- 夏の数ヶ月に発生
- 犬で多い

熱中症

- 高温環境下で体温調節機能に障害が生じた状態
- **典型的症状**
 - 高体温 (犬39.8度以上)、嘔吐、下痢、虚脱
 - 臓器障害 (肝臓、腎臓、脳、循環器系)
- **なり易くなる要因**
 - 脱水、肥満、運動不耐性、幼若齢・高齢、投薬、中枢神経疾患
- **増悪し易い要因**
 - 短頭種、上気道疾患
 - 熱中症の既往歴 (再発のリスクが高い)

5. 獣医療の欠如

- 獣医療を必要としている明らかな病状を治療しないこと
- 経済的困窮、故意による
- 対象となる疾患: 外傷、感染症、腫瘍、先天性疾患、基礎疾患 等
- 病状が進行したり、増悪している
- 感染症が蔓延している
- 痛み・苦痛への対症療法の欠如
- 改善の見込みのない苦痛への安楽死の欠如
- 治療しないことによる死亡





6. 遺棄

- 飼っていた動物を捨てること
- ケージ・キャリーで遺棄（犬、ウサギ、ヒョウモントカゲモドキ等）⇒拘束されたままの遺棄
- 野外への遺棄 ⇒市民からの情報提供
- 他人の敷地内への遺棄 ⇒居住者から情報提供
- 遺棄した者が見つからないことも多い
⇒地域の動物福祉を向上させるため
保管委託を受けることが重要

39

ネグレクト所見まとめ

- 爪の伸長、被毛粗剛、毛玉形成
- 歯牙形成異常、脱落歯、多量の歯石
- 皮膚病、外耳炎、眼脂、鼻水
- 瘦削、筋肉の萎縮、脂肪量の低下
- 貧血、脱水、飢餓
- 胃内容物を認めない、異物摂取、胃潰瘍
- 高体温症、低体温症
- 感染症（ウイルス、細菌、原虫、寄生虫）の蔓延、膿瘍
- 未治療の疾病、損傷
- 死体の保管、放置、遺棄
- 共食い
- 行動異常（攻撃性、常同行動、沈鬱）

動物虐待の判断に迷ったら

日本法獣医学会
日本獣医生命科学大学 野生動物学研究室 まで
ご相談ください！

メールにて24時間365日受付

日本獣医生命科学大学
野生動物学研究室 疫学班
連絡先：0422-31-4151（代）
平日：10:00～16:00